

## 広島県北広島町廃校活用事例 ～社内研修施設として活用～

旧学校名	北広島町立八幡小学校
業種	パン製造販売
用途	社内研修施設
建築年月日	昭和49年6月17日
活用開始年月日	平成25年8月1日
改修費用	約6,500万円
規模	9,746㎡



ANDERSEN  
GROUP

## アンデルセン芸北パン生活文化研修所



製パン室や宿泊室を備えた施設に改装し2013年夏に設立。社内式典や、新入社員研修、製パン研修、昇格研修などグループ内の様々な研修を実施しています。

デザイン：  
ドーンデザイン研究所 水戸岡鋭治氏  
工業デザイナー。  
九州新幹線「つばめ」や、豪華クルーズトレイン「ななつ星in九州」をデザイン

### 小学校閉校記念碑除幕式、開所式



創業記念式典



新入社員入社式



研修風景



## なぜその地域だったのか？



高木俊介メモリアル  
アンデルセン芸北100年農場  
アンデルセン芸北100年農場の理  
念

創業の精神にたちかえり、パンづくりを学ぶ場

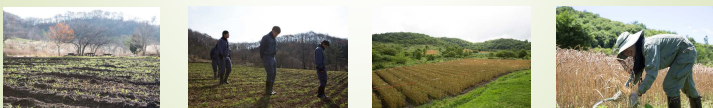
### 農場概要

- ・2004年設立
- ・面積 187ヘクタール  
(東京ドーム約40個分に相当)
- ・標高 約800メートル
- ・気候 年平均気温は10℃前後。  
冬は1～2mの積雪があります。

### 農場設立の背景

創業者の夢だった自社の製パン学校を作ろうと、2003年末より具体的な検討をスタート。最初に考えたのは製パン実習室と製パン理論を学ぶ街中の学校でしたが、創業の精神に立ち返り技術だけではなく人間性も磨ける学校にしたいと思い至った時に出会ったのが、広島県北部の元町宮牧場があった広大な土地でした。これを買取り、「アンデルセン芸北100年農場」と名付け、パン学校の舞台と決めました。

自ら土を耕し、小麦を育て、粉を挽き、パンを焼いて、仲間と食卓を囲む、そして1個のパンが焼きあがるまでにたくさんの人の愛情と努力が注ぎ込まれていることを身をもって体験し、自分で考え行動する力を育てる研修の場として、2004年に「高木俊介製パン学校」は開校しました。



### 研修の考え方

土づくりから食卓まで



### 研修の目的

「よきパン職人としての心を育み、技を磨く」

### 研修内容

毎年、若手社員のなかから手を挙げ、面接を経た1期約6名を派遣。1年半のカリキュラムのなかで様々な体験を通じて、よきパン職人としての心と技術を磨いています。

## なぜその廃校施設に決めたのか？

地域との交流を大切にしたい！  
地域の人々の集う場を残したい！



かきつばたまつり



盆踊り大会



中学生職場体験



高木俊介製パン学校卒業式



## 配慮したこと

地域のみなさんの意向  
→町の説明会に何度も出席  
→地域の意向を最大限反映

地域のみなさんの思い出の場  
→外観はそのままで、  
必要な機能を加える



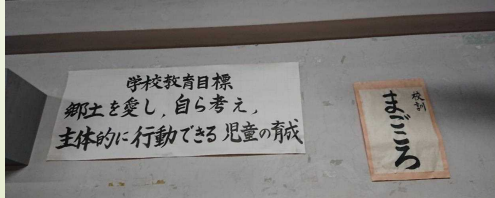
体育館やグラウンドは地域のみなさんに開放し、地元の行事などに使用することで、地域との良好な関係を築いています。

## 廃校活用のメリット

学びの場(小学校)→学びの場(研修所)

### ①学びの場所としての意識付け

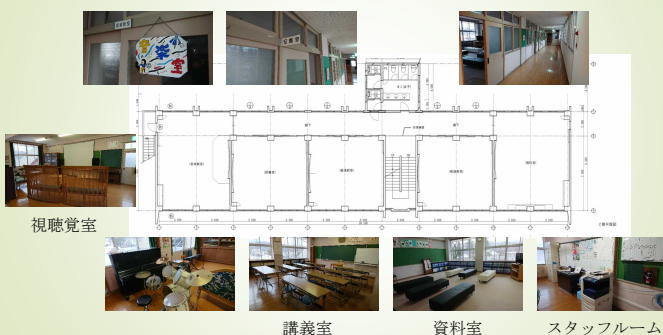
八幡小学校教育目標



### ②教育設備の効率良い配置、初期投資費用の抑制 研修所1階(研修に最適な形に)



### 研修所2階(可能な限りそのままの形で)



## 共に学び、共に歩む

学校は、長い歴史や文化を守り続け、地域の愛着によって支えられてきた施設です。  
廃校は終わりではなく、新しい歴史の始まりにもなります。

八幡小学校から生まれ変わったアンデルセン芸北パン生活文化研修所で、アンデルセングループを愛し、自ら考え、主体的に行動できる社員を育て続けます。